

令和6年12月24日（火曜日）

高校生と姫路市議会との座談会（総務）

議会会議室

出席議員

井川一善、妻鹿幸二、阿野れい子、有馬剛朗、
三輪敏之、三和 衛、下林崇史、坂本 学

出席高校生

淳心学院高等学校 3人、
姫路女学院高等学校 4人

開会 9時57分

委員長挨拶 9時57分

出席者紹介 9時59分

意見交換 10時03分

○テーマ

・南海トラフ地震などの大規模災害・減災対策
「災害を前に本気で私たちがすべきこととは」
(委員長)

両校から資料に基づき、本テーマに関する提案をしたいとの申出を受けているので、説明を受けることとする。
(高校生)

【淳心学院高等学校が資料に基づき説明】

【姫路女学院高等学校が資料に基づき説明】

(委員長)

淳心学院高等学校はしっかりとリサーチを行い、答えを導いていたと思う。また、姫路女学院高等学校も基本をしっかりと押さえていたと思う。確認となるが、皆さんの中で姫路市在住の方はいるのか。

(全員挙手)

(委員長)

同じ姫路市内でも沿岸部や北部地域など、どこに住んでいるかで地震に対する考え方は変わってくる。

例えば、私は沿岸部の大塩地区在住であり、地震の際には津波が心配であるが、北部地域では山崎断層帯のほうが気になると思う。また、大雨が降れば、低地であれば床下浸水が心配になると思うが、高台だと気にしないと思う。

災害が発生した際、避難経路や近所で避難に手助けを要する人の把握のほか、どのような行動を取るべきか家族で話し合っているか教えてほしい。

(高校生)

一度、話し合いをしたことはある。

(高校生)

あまりない。

(高校生)

避難所は家族で確認している。

(高校生)

今回の座談会の参加に当たり再確認した。

(高校生)

どこに避難するかは家族で決めているが、手順など詳細までは詰めていない。

(高校生)

避難所は確認している。近所付き合いはあまりない。

(委員長)

避難所を確認しているだけでもすごいと思う。多くの人は避難所すら確認していないと思うが、自分たちの住んでいる場所で地震は発生しないという思い込みが根底にあると思う。それは、身近で被災体験がないため、実感が湧かないということもあるため仕方のない部分もある。

ただし、災害発生時は、先ほどの提案の中にもあった「共助」は大変重要になってくるが、この部分がすごく薄れてきている。これは、個人情報保護の弊害かもしれないが、災害時に手助けが必要な人の情報が表に出にくくなっている。

避難所について、沿岸部では地震が発生すれば津波も発生するおそれもあるため、通常であれば高台のほうに避難すると思う。ところが、私の居住地では、避難所が海側となる南にある。地域によって、想像とは違うところに避難所がある場合もあるため、一度は確認しているほうがいいと思う。

今年の8月に1週間ほど「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」発表に伴う政府としての特別な注意の呼びかけがあった。姫路市は自治会の組織率が90%近くあり、全国屈指の高さを誇っている。市からの情報は自治会に依頼し、ほぼ全員に行きわたるようになっているが、自治会や消防団などの防災訓練に参加したことがある人はいるか。

(高校生)

参加したことがない。

(委員長)

学校での避難訓練はどうか。

(高校生)

小学生のとき、消防団が来てくれて訓練に参加した記憶がある。中学校になってからはほとんどない。

(高校生)

幼稚園児などの小さな子ども向けの防災訓練は覚えているが、中高に入ってから、そこまで熱心に防災訓練をやった記憶がない。

(高校生)

私も同じで小学生のときの防災訓練はよく覚えているが、中高での避難訓練は印象が薄い。

(委員長)

私も小学生のときに、バケツリレーや消火器を使った防災訓練に参加した記憶はある。各地域で防災訓練も実施されていると思うが、参加者は、防災意識の高い世帯や自治会の役員ぐらいで、大半の方は面倒くささを感じ不参加だと思う。防災意識の向上は本当に今後の課題であると思う。

各委員も地元から防災に関する相談を受けることがあると思うが、どのような相談があったか聞かせてほしい。

(議員)

高齢者から、足が悪いので避難所まで行けない、避難所に行くまでに坂があるので登れないという意見を時折聞く。その対策として、地元の会社やお店に一時避難させていただくこととしている。

(議員)

私は別所地区在住であり、市川から少し離れているため、防災に関する相談はあまりない。私も防災の必要性を訴えているが、どこまで防災対策ができているのかと改めて考えさせられた。

先ほどの説明で、共助や地域とのつながりの大切さを指摘されていたが、私の居住地域は転入が多いこともあり、付き合いがなく、家族構成も知らない世帯が結構多い。皆さんは地元で防災訓練が実施されていることを知らないのか、それとも知ってはいるが不参加という状況なのか。

(高校生)

防災訓練が実施されていることは知っているが、あまり参加する気にならない。自分たちの地域は災害が発生しないという思いと、家族で話し合っているので十分だという思いがある。

(議員)

私は浜手の白浜地区在住であるが、平成23年と24年に甚大な浸水被害を受けた。特に多かったのは床上浸水であったが、場所によっては床上浸水もあった。浸水常襲地域での減災には河川改修や下水道整備のようなハード面の整備が必要になるが、時間もかかるし財政的な問題もある。そのため、防災に関する意識や、知恵とか知識を高めていくことが重要だと感じている。

地域とのつながりに関して言えば、大規模災害の発生時の要援護者の避難確保など問題もたくさんあるが、若い方が防災意識を高め、みんなで家族や地域を守るというほうに意識を向けてもらえればと思う。総合力が犠牲者や被災者を減らすことにつながる。

(議員)

私は、約45年間務めた消防団をつい最近定年で退団した。経験談になるが、火事が発生した際、その隣近所の方が、慌てて家から持ち出したものと言えば、しゃもじや金魚の餌などとんでもないものであったことがある。これは、災害は身近で発生しないという思い込みがあるからであり、いざ災害が発生すると慌てて何もできない。

また、私は自治会長も務めているが、避難所は掲示している。自治会活動が低調なところはそのような掲示もしていないかもしれない。避難訓練も年に1回実施しているが、災害発生に対する危機意識の欠如からか参加率が低調であり、隣保長が各家庭を回り、連絡網などの確認を行っているため役員の負担は大きい。

南海トラフ地震は今後20年で60%の確率で発生すると言われている。マスメディアでも、災害発生に備えての準備や防災、減災に関する放送が盛んになされているが、このような状況で大丈夫なのか心配だ。

(議員)

私は野里地区在住であるが、年に1度校区防災訓令が実施されている。毎年訓練内容を変えているが、参加者は小学生を除くと高齢者ばかりで、若い世代は来てくれない。訓練に参加すれば参加賞を渡すという考えもあるが、訓練目的から逸脱するという危機感もある。

また、私は阪神淡路大震災が発生した時期、祖父に連れられて月2回神戸に通っていたが、見慣れた風景

が一変し、大きな衝撃を受けた。

能登半島地震の被害状況は、いろいろな媒体を通じて見ることはできるが、実感が湧かないと思う。ただ、災害はいつ身近で発生してもおかしくないし、過去の震災で熊本城が倒壊したのと同様、普段見慣れている姫路城が倒壊すると物すごい衝撃を受けると思う。だからこそ、他の地域でも災害が発生すれば、よそごとと思わず危機感を持ってほしいと思う。

参加者の皆さんは2年生が中心であるが、来年度は最上級生になる。皆さんからの提案や私たちとの意見交換の内容も含めて学校に持ち帰り、防災や災害対応などをみんなで話す場を設けるなど、リーダーシップを発揮してほしいと思う。

(議員)

私は家島在住であるが、年々感じるのが、高潮の潮位が高くなっていることだ。南海トラフ地震が発生すると被害が大きいと思うので、家島在住の方、特に高齢者が心配だ。

共助の話があったが、災害発生時に高齢者を1人でも運べるよう身体を鍛えている。阪神淡路大震災は、限定地域での発生であったにもかかわらず大混乱をもたらしたが、広域災害が予想される南海トラフ地震が発生すれば、誰が助けてくれるのだろうかと思う。

また、食料も数日分では全然足らず、1か月単位での備蓄が必要かもしれない。特に島なので水と食料が届くのかどうか、どう確保すべきかを考えると不安になる。

災害発生時の対応として、自助・共助・公助という考え方があるが、一番大事なのは自助だ。共助と公助はあまり期待しないほうがいいと思う。

災害が発生した場合、例えば、SNSを駆使するなど若い皆さんの知恵も出し、弱者を守ってほしいと思う。

(議員)

私が心配しているのは、老朽危険家屋が非常に増加していることだ。このような家屋は、面している道路幅が狭く、撤去して平地にしても売れないという理由から放置されているが、いつ倒壊してもおかしくない。

国や市も法律や条例改正を行い、改善に向けて一歩前進しているが、ちょっとした地震でも倒壊し、避難経路が寸断されてしまうおそれがある。

また、避難所に行くまでに橋を渡る必要がある場合、橋が崩壊すると避難所まで行けないので、二次避難場所を探してほしいという相談もよく聞く。

白浜地区では、津波が発生した場合、姫路バイパス辺りまで避難する必要があるため、逃げ場がない。かなり難しいが、山陽電車白浜の宮駅を高架にし、そこを避難場所にしてほしいというような要望もある。

指定避難所でなくても緊急一時避難場所を把握し、とにかく自分の命を守ることを最優先に避難してほしい。食料などは、災害が収まれば避難所で受けることができる。

(委員長)

議員でも地域によって相談や要望は全く異なる。私は阪神淡路大震災の際、現地支援に行ったが、国道250号は白浜地区辺りから被災地まで渋滞していたし、新幹線も新大阪から姫路まで1年近く運行されなかった。

今では想像を絶するような状況であったが、みんなで手を取り合って復活させていったと思う。

しかしながら、当該大震災が発生して30年が経過し、隣人が誰かも分からないような社会となっている。まずは自分の命を守ることを最優先すべきであるが、その次は、自分のできる範囲で他の人を助けてあげてほしいと思う。

先ほど姫路女学院高等学校からボランティア活動にも言及があったが、実際にボランティア活動に従事したことがある人はいるか。

(挙手者なし)

(委員長)

先ほど委員から平成23年の浸水被害に関する発言があったが、私の自宅も浸水被害を受けた。その後、対策を講じて改善したが、あるとき大雨が降り、再度浸水被害を受けた。原因は排水ポンプにナイロン袋が挟まり、そこに草やごみがたまっていたため排水できなかったためだ。

災害発生時にボランティア活動に行くことも大事かもしれないが、普段からごみが落ちていれば拾って捨てる、溝掃除をしておく、草抜きをしておくなど、身の回りの小さな積み重ねが防災では重要である。

災害対策は実体験がなければ分からないし、阪神淡路大震災の経験者も30年が経過し当時の衝撃も薄れてきているかもしれない。

姫路市も公式LINEなどで情報発信をしているので一度見てほしいと思う。命のパスポートというものもある。一度家族や友人たちとこのようなツールを使ってみてほしいと思う。

役所には消防署や防災対策の部署もあるが、職員も被災するので100%機能するかどうか分からない。避難所運用もルール化されているが、実際に運用してみると地域ごとに不都合なところも生じる。そのようなところにも考えていく必要がある。

また、人口減少により将来、橋の補修など社会インフラ整備に回せる予算が不足しているようなこともあり得るため、共助の充実は必要だ。

近年、市川が氾濫しそうになったことがある。河川や水路の許容量は、1時間当たり50ミリの降雨量を想定しているが、最近では一気に100ミリを超えるような地域も出ている。このような状況であると、避難所への避難も間に合わないため、2階への垂直避難なども必要である。また、警報レベルも数段階あるが、警報が発出されても大丈夫だろうではなく、避難指示が出れば、速やかに避難することが大事になる。

皆さんは情報データ取得や発信が得意だと思う。スマートフォンには、どこに避難すればよいかなどの情報が詰まっているし、緊急状況も発信しているため、周知してほしいと思う。

議員も議会でいろいろな提案を行っていくが、分からないことも多く限界もある。今後もいろいろな情報を教えてほしいと思う。

(議員)

深夜、就寝時に大地震が発生した場合、最初に取り行動を教えてください。

(高校生)

毛布をかけて寝ているのであれば、その下に隠れて、照明の落下などから頭を守ろうと思う。

(高校生)

私も頭を守るために布団に潜ると思う。

(高校生)

家族を起こしに行く。

(議員)

先ほどの意見は、自分が無傷で動けることが前提になっているが、既にけがをしているなどの状況も想定してほしい。防災グッズの中に防災ラジオや笛も追加

しておいてほしいと思う。笛は身動きできない場合に吹けば所在を知らせることができる。

(委員長)

頭や身体を守るため毛布を被ったり、机の下に避難したりすることもいいと思う。

(議員)

上履きや靴などがないと、割れたガラスで歩けない場合もある。

(議員)

災害が発生した場合、皆さんはSNSで情報を得ると思うが、注意しないといけないのは偽情報が混じっていることだ。悪意を持って偽情報を流す人もいて、それがあたかも正しい情報のように拡散されることがある。そのような状況になると、救助活動に重大な支障が生じることになる。

災害発生時の情報は、命を守る大事なとりでだ。皆さんはSNSの活用に慣れ親しんでいるが、正しい情報を取得し、おかしな情報は拡散しないというネットリテラシーを高めてほしいと思う。

(高校生)

強制的に避難訓練に参加させることは難しいのか。

(委員長)

コロナ禍の際、外国では都市封鎖により市民の外出が禁止されたが、日本では「ステイホーム」という呼びかけだけであった。なぜ、政府は強制できなかったか分かる人はいるのか。

(高校生)

支持が低下することを恐れてだと思う。

(委員長)

学校で習っていると思うが、日本は法治国家である。その最も基礎となるものは何か。

(高校生)

憲法だと思う。

(委員長)

そのとおりである。日本国憲法では、個人の自由が保障されている。もちろん、公共の福祉に反しないという制限はあるが、例えば、東日本大震災の際、道に流された放置自動車があったとしても、憲法で財産権が保障されているため、当該自動車を強制的に撤去することは難しかった。このように憲法で規定がある以上、避難訓練や防災グッズを常備させることを強制し

ようとするとは相当な反発があると思うし、できないと思う。

先ほど、防災訓練の不参加について皆さんにも聞いたが、不参加理由は面倒くさいという意見も多かった。それを強制しようとする、補助金を出してほしいというような声が出るかもしれない。法的な縛りで対応できないことがあることも知っておいてほしい。

(高校生)

小学校とかに設置されている備蓄倉庫の非常食であるが、賞味期限が近くなると小学生に提供すると資料にあった。私もユーチューブで初めて知った。備蓄倉庫に保管されている物や非常食が何食分あるのかという周知や、賞味期限が切れそうな非常食を市民に配布することはできないのか。

(委員長)

例えば、使用期限のある生理用品なども含めて貧困世帯へ配布をしてはどうかという議論を議会でも行っており、少しずつであるが進んでいる。

備蓄倉庫の中身については、地域によって差異はあると思う。備蓄倉庫を管理している自主防災組織の役員を自治会役員が兼ねているところも多いと思うが、初めに備蓄倉庫を設置した役員は中身の把握はできても、役員が数代変わると分からなくなることもある。

学校を通じて、備蓄倉庫の見学の申込みをしてもいいと思う。公立校では備蓄倉庫は大体あると思うので先生に聞いてみるのもいいと思う。

(高校生)

全市一斉清掃が12月1日にあったと思う。この清掃活動は、各世帯1人は参加していると思うので、その機会を捉えて、防災訓練や避難所の確認を行うことは難しいのか。

(議員)

自治会でも防災に対する意識差がかなりあるし、やはり市が強制的にさせることは難しい。

(委員長)

在校時間中に災害が発生する可能性もあるため、学校に対して防災訓練の実施を提案してみてもどうか。

(高校生)

自分たちの学校には、他市から通学している生徒もいるので、姫路市の考え方による避難方法を植え付け

てしまってもいいのかと思う。

(委員長)

在校中に災害が発生した際、どうすべきか考えておくことも大事であると思う。

今までは行政から市民や自治会に投げる形であったが、今後は、一般の人が行政に提案していく時代になる。

姫路市には69の小学校校区があるが、みんな一斉に同じことをやるのではなく、地域によって防災に対する要望も変わり、地域差が出てくると思う。そのような意識の高い地域は、子育て世帯などの若い世代から人気が出ると思うので、その動きが広がれば姫路市ももっと住みよくなっていくと思う。

(高校生)

避難訓練は、小学生のときに学校で強制的に参加させられてきたが、実際に地震があったとき、みんな一斉に机の下に隠れたので、何回か経験しておくことはやはり大事だと思う。そのため、強制的に参加させてもいいと思った。

また、緊急地震速報と併せて、最寄りの避難所を通知することはできないのか。

(委員長)

地震速報はあくまで避難勧告である。避難所については、姫路市の公式LINEに自分の居住区域などを登録しておけば探せると思う。

(高校生)

探すことは2段階になるので、スマートフォンですぐに受信できるようなことは難しいのか。

(委員長)

予算も伴うため、担当課でないと回答は難しい。

(高校生)

避難訓練に参加しない人たちにとって、避難場所が通知されるような仕組みがあれば、実際に災害が発生した際の被害が軽減されると思う。

(委員長)

スマートフォンに自分の位置情報を提供することを嫌がる人もいると思う。

(高校生)

地区を入力するくらいであれば、そこまで個人が特定されないと思う。

(議員)

予算は有限であるので、何かに予算を増やせば、何かの予算が減ることになる。学生との意見交換では教育費の増額や図書館の充実の意見が多いが皆さんはどうか。

(高校生)

教育を受けることで、自分の知らなかったことを学べるので、教育費の増額ありがたい。

(委員長)

少し時間があるので、議員活動に関する質問など自由討論とする。

(議員)

市会議員も政治家であるが、政治家のイメージはどうか。

(高校生)

国会中継を見ていると寝ている議員がとても多い。SNSでも、正しいかどうかは分からないが批判が多いので悪い印象がある。

(高校生)

私も悪い情報をよく目にするが、実際、見たことがないので判断はつかない。

(議員)

どのテレビを見ても悪い政治家が報道されるため、悪いイメージしかないというのは分かる。

ただ、今回の座談会に参加してもらって分かったと思うが、委員長のように各議員も市民のためにすごい熱量をもって委員会でも発言している。

皆さんもぜひ政治家を目指してほしいと思う。

(議員)

姫路のここが好きであるとか、嫌いなところとかあれば聞きたい。

(高校生)

世界遺産が地元にあるのはいいと思う。

(高校生)

姫路城以外のランドマークがあるのかと思う。

また、姫路には昔の建物が多いし、保守派が多いというイメージがある。昔のものを残すということは大事かもしれないが、残し過ぎだとも思う。もっと、リノベーションしていく方がいいと思う。

(高校生)

姫路城があるのは誇らしい。姫路市は都会過ぎず、田舎でもない。新幹線も停車するし、交通網も行き届

いているし、いいと思う。

(委員長)

姫路に永住したいと思うかどうか。

(高校生)

将来住み続けたいかと言われると考えてしまう。

(高校生)

姫路には歴史があると思うが、ニューヨークのほうがいい。

(高校生)

姫路は住みやすいとは思いますが、北海道に行ってみよう。

(高校生)

姫路城はすごくきれいだなと思うし誇りでもある。

ただ、地域柄かもしれないが、いわゆる「やんちゃ」な人が多いのがマイナス要因だと思う。

(委員長)

他に聞いてみたいことはないか。

(高校生)

高校生の所得制限なしの医療費無料化実現について教えてほしい。

(議員)

我々議員も市長も頑張ったと思う。ただ、この無償化により、どこかにしわ寄せが行くことは理解してほしいし、不要な通院を控えることも大事だと思う。

これから日本で問題となるのは医療費だ。これだけ医療制度が充実しているのは日本以外にはない。

(委員長)

予定の時間となったので座談会を終了する。

意見交換終了

11時35分

副委員長挨拶

11時36分

閉会

11時39分